

日刊 動労千葉

87. 6. 2
No. 2565

国鉄千葉動力車労働組合
千葉市要町二一八（動力車会館）
（鉄電）二九三五（六）（公衆）〇四七二（二二）七二〇七

動労千葉とたたかう国鉄労働者6・20集会へ

動労総連合拡大の絶好のチャンスだ！ 全力で牛込公会堂へ結集しよう

今日、反動中曽根内閣が体制的危機にあえぎ、労働運動が右傾化を強める中で、動労千葉―動労総連合の存在は極めて重要になってきている。一億円ストライキ基金幹事会は、「動労千葉を支援する会」を発足させ、その第一弾として六月二〇日に「動労千葉とたたかう国鉄労働者をはげまし連帯する6・20集会」を開催することを決定した。呼びかけに応え全力で牛込公会堂へ結集しよう。

危機深める中曽根

反動中曽根体制は、日米経済摩擦の激化、売上税の廃案、さらに自民党内の主導権争いなど、その体制的危機をなんとか乗り切ろうと軍事大国化・改憲、戦争への道を強権的に推し進めようとしている。

しかし、「戦後政治の総決算」攻撃の最大の目玉であった「分割・民営化」国鉄労働運動破壊が失敗し、動労千葉―動労総連合、国労が、今なお不屈に闘いぬいているという現実の中で、中曽根は危機を一層深化させている。

まさに、今日の労働運動が、全民労働化、産業報国会化を強める中で、原則を守りながら闘い続ける動労千葉―動労総連合の存在が極めて重要な位置をしめているのである。

鉄道労連解体・一掃へ

この現実には恐怖した中曽根・当局は、動労革マル松崎を手先とした「4・7デッチ上げ」攻撃や、営業（駅）、売店などへの強制配転攻撃などに示されるようなまきかえしの攻撃を、動労千葉―動労総連合にかけてきている。

しかし、この攻撃に対して動労千葉―動労総連合は、労働者の敵である動労革マル―鉄道労連を解体・一掃し組織の強化拡大をかちとり、あらゆる職場に責任

をもちきる労働組合を目指して闘いぬいているのだ。

動労総連合拡大の 絶好のチャンスだ

こういう中で、今こそ労働運動の最先頭で闘う動労千葉を守ろう、という声が高まり、四月十一日に開かれた一億円国鉄ストライキ基金幹事会は、これまでのジェット闘争支援基金と一億円ストライキ基金を一本化し、「動労千葉を支援する会」を発足させ、その取り組みの第一歩として六月二〇日に、「動労千葉とたたかう国鉄労働者をはげまし連帯する6・20集会」を開催することを決定した。七月に動労が解散大会を開くという状況のもとで、動労総連合の強化拡大の絶好のチャンスであり、これを射程に入れた重要な集会である。

「支援する会」の呼びかけに応え、六月二〇日、牛込公会堂に全力で結集しよう。

動労千葉とたたかう国鉄労働者を はげまし連帯する6・20集会

- ★呼びかけ人
- 浅田 光輝（立正大学教授）
- 北原 鉦治（三里塚芝山連合空港反対同盟事務局長）
- 高島喜久男（労働運動評論家）
- 宮島 義勇（映画監督）
- 鎌倉 孝夫（埼玉大学教授）
- 佐藤 芳夫（全造船石川島分会委員長）
- 永井 満（淡路国際空港淡路町反対同盟代表）
- 八重樫友美（全金本山労組委員長）

